

「小学校生活で思い出すこと」

昭和16年4月、沼田東村内に三つあった尋常小学校が、今の沼田東小学校に合併した。私はその学校の1年生として入学した。

学校までは子どもの足で約1時間かかっていた。当時の末広学区内の戸数は50件あまりで、各家には5人前後の子どもがおり、多い家には子どもが8人という家もあったので、登校時はにぎわっていた。

制服もあったと思うが、太平洋戦争中や敗戦後の学校生活であったため、服は兄や姉のおさがりで、中には着物を来ている人もいた。履物はわら草履であった。

広い運動場はさつまいも畑となっていたので、運動場のほとりで遊んでいたことを思い出す。

学校に行く道は東西にあるが、その道の土手にもさつまいもやえんどう豆が植えられていた。食糧不足を補っていたのでしょう。

学校の上にも畑があり、そこにもさつまいもやえんどう豆が植えられていた。先生と高学年の児童が世話をしていた。

学校でヤギを飼っていた。当番は朝、餌の草を刈り取るため、学校から1キロばかり離れた天井川まで行き、川土手の草を刈り、学校へ持ち帰りヤギへ与えた。

戦争の変化で食料品は不足し、餅に入れる餡も砂糖が無くなり塩味になっていったのを思い出す。

あの8月6日の朝8時過ぎ、いつものとおり草刈りに行っている時、ピカッと輝いたのは「広島に大きな爆弾が落とされたことによるものだろう」ということだった、びっくりしたのを覚えている。

学校へは集団で行っていたが、B29による爆撃に備え、逃げ込む防空壕が道沿いの山裾に掘られ、今もその壕が残っている。見るたびにあらためて戦争が怖かったことと、現在の平和のありがたさをかみしめている。